

2010. 9. 26 聖別会

# IMMANUEL

インマヌエル  
中目黒キリスト教会  
聖別会マンスリー



2010年

<ジョン・オズワルト著 『聖』を生きる人々>

## 第8章「新しい契約と聖なる生活」b

### ⑦『罪を抑えることはできない』のか？』

テキスト：

「私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。」（ローマ7:24）

前回は、罪に勝ち続ける生涯の可能性について6章から学んだ。7章はその続き。想定される質問をQとし、[カッコ]の中パウロの答えを記す。

Q（6章から7章へと進む時の質問）：救われるのは恵と信仰によるが、それを保つには、聖い生活を送ろうという努力が必要か？  
[いいえ、人のどんな努力も神との関係を保つことはできない]

Q：律法への厳格な服従が罪に勝つ人生を齎すのか？  
[かつての夫である律法が死んで、キリストという新しい夫と結ばれたのだから、昔の夫に戻る必要は無い]

Q：人の努力はそんなに虚しいのか？  
[私もやってみたが、それは果てしない苦しみを齎すだけだ]

- Q : 7 : 8-25 の苦闘は、クリスチャン一般の経験か？  
[パウロの現在の経験ではないし、また、信仰者のノーマルな状態の描写でもない（もしそうであれば、6章で述べた罪の終焉、8章で述べる罪からの釈放というメッセ時と矛盾する）。これは、自分の持っている力で神を喜ばせることに失敗したユダヤ人としての経験を描写している。]
- Q : それでは律法は何の為にあるのか？  
[神の聖さと人間の罪深さを鏡のように明らかにする為。]
- Q : 律法が罪を増加させるとは？  
[律法によって示された罪が力を得て、却って増え広がり、私達を死にまで追いやるほど、ダメージを与える]
- Q : 人間の問題とは何か？  
[「肉」と呼ばれる、持って生まれた罪の性質が問題]
- Q : 「肉」とは何か？  
[人生の全ては肉体の欲求を満たすためと考えること、また、人間の能力が最高とする心の姿勢のこと。神の道でなく、自分自身の道を求める傾向]
- Q : まとめて言うと？  
[①律法そのものは良いもの、しかし、②人間の心にしっかりと根を下ろしている罪の性質がその遵守を不可能にする]
- Q : 袋小路に追い詰められた私とは？  
[私は自分がしたいと思うことができないで、自分が憎むことを行っている]
- Q : その私を救うものは誰か？  
[キリストの霊に私たちの内に働いていただくこと=8章のテーマ]

“Holiness unto the Lord” is our watchword and song;  
“Holiness unto the Lord” as we’ re marching along.  
Sing it, shout it, loud and long;  
“Holiness unto the Lord” now and forever.